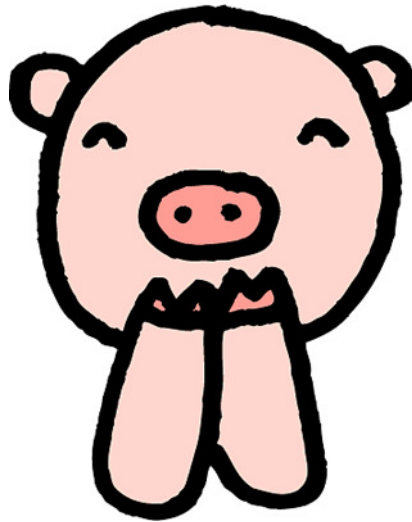


新刊児童図書リスト

(平成 25 年下半期版)

平成 26 年 4 月
広島県立図書館

第 25 号



📖リストについて

- ・ このリストに掲載した絵本は、平成 25 年 7 月から同年 12 月までの間に出版されたものです。また、児童図書、青少年向け図書は、平成 24 年 10 月から平成 25 年 12 月までの間に出版された読み物です。
- ・ このリストの各テーマは、本を紹介しやすいように便宜上設けたものです。他のテーマに分類できるものもありますが、御了承ください。
- ・ 【 】の中は、広島県立図書館の資料分類のための請求記号です。E は絵本、C は知識の絵本を表します。
- ・ このリストで取り上げた本は、全て広島県立図書館で借りることができます。また、お近くの公立図書館を通して借りることもできますので、御利用ください。

絵本

◆ 好き

『おふろにいらて』せなけいこ／作・絵，ポプラ社【Eセ】

男の子のりゅうちゃんが、みんなと一緒にお風呂に入っているとお化けがやってきました。みんなが怖がって逃げようとする…。昭和49年に出版された紙芝居を絵本にした作品です。

『ときめきのへや』セルジオ・ルッツィア／作，福本友美子／訳，講談社【E M】

「ときめきのへや」には、ねずみのピウスが集めた宝物が飾ってあります。その中に、小さな灰色の石ころが一つありました。

◆ 絵の力

『紙のむすめ』ナタリー・ベルハッセン／文，ナオミ・シャピラ／絵，もたいなつう／訳，光村教育図書【Eへ】

イスラエルの絵本。白い紙から生まれた娘が、紙をハサミで切って、気球やドレスなどを作っていました。切り絵が大変繊細な美しい絵本です。

『だましえだいく』青山邦彦／作・絵，フレーベル館【Eア】

新入り大工のハンズが家を作ると、なぜかだまし絵の家ができてしまいます。「だましえだいく」と呼ばれたハンズは、仕事をクビになってしまいました。ストーリーをたどるとともに、だまし絵も楽しめる絵本です。

『きいろいふうせん』シャルロット・デマトーン／作，西村書店【Eテ】

黄色い風船が、ふわふわ飛んで地球一周をします。それぞれのページに隠れている黄色い風船や空飛ぶじゅうたん等を探していく、文字のない絵本です。

『もりのおきやくさま：「三びきのくま」のさかさまのおはなし』ブリントン・タークル／作，こぐま社【Eク】

昔話『三びきのくま』のくまと人間の設定を置き換えた話。こぐまが忍び込んだところは、実は人間の家で…。1976年にアメリカで発行された文字のない絵本。

『水の生きもの』ランバロス・ジャー／著，市川恵里／訳，河出書房新社【E シ】

インドの工房で手刷りされ製本された，ハンドメイドの絵本。インド東部ビハール州に伝わる民俗絵画の一種であるミティラー画をモチーフにしています。ボローニャ・ラガッツィ賞優秀賞受賞。

『はしれ，トト！』チョ ウンヨン／さく，ひろまつゆきこ／やく，文化学園文化出版局【E 才】

女の子が，おじいちゃんに連れられて，初めて競馬場に行きました。子供の目に映る競馬場やそこにいる大人たちが，多彩な表現で描かれています。ブラティスラヴァ世界絵本原画展でグランプリを受賞した作者のデビュー作。

◆ 動物

『ちびはち』エドワード・ギブス／作，谷川俊太郎／訳，光村教育図書【E キ】

「ちびはち ちびはち なんでにげるの」それは，蛙に追われているから。蛙はへびに，へびはマングースに追われ……と，ページをめくるたびに，追う側と追われる側が入れ替わって行って，最後は……。

『おむかえワニさん』陣崎草子／作・絵，文溪堂【E シ】

ちよちゃんは，おばあちゃんの家で1人で遊びに行くことになりました。駅まで迎えに来たのは，なんと「こわいくち」をしたワニさんでした。2人は，無事おばあちゃんの家に行くことができるのでしょうか。

『しあわせなワニくんあべこべの1日』神沢利子／作，はたこうしろう／絵，ポプラ社【E カ】

明日は，大好きなモモコさんとはじめてのデートの日。ワニくんは，胸がドキドキして落ち着きません。お昼のうちから寝てしまったワニくんが目を覚ますと，辺りはまだ薄暗く……。

『じゅっぴきでござる』エクトル・シエラ／作，高島純／絵，佼成出版社【E シ】

「おはなしをきいてくださる？」。最初は10匹いた猿が「いっぴきぎるそばをたべすぎ，きゅうひきでござる。」と1匹ずつ減っていき，最後には…！？言葉遊びが楽しい絵本です。

『ネコが好きな船長のおはなし』インガ・ムーア／作・絵，たがきょうこ／訳，徳間書店【E A】

船にたくさんのネコを乗せ，みんなから「ネコ船長」と呼ばれている船長がいました。ある日，ネコ船長は旅に出て，小さな女王様が治めている，ネコのいない島にたどり着きます。

◆ 冬

『しろちゃんとはりちゃん』たしろちさと／作・絵，ひかりのくに【E ㉗】

白ウサギのしろちゃんと，ハリネズミのはりちゃんは大の仲良し。でも些細なことではんかし
てしまい，はりちゃんが家を出ていってしまいます。

『はーくしょい』せなけいこ／作・絵，ポプラ社【E ㉘】

元気なルルちゃんが風邪をひいてしまいました。マスクをかけてもセーターを着ても「はーく
しょい」。そこで登場するのは…。

『サンタさんのトナカイ』ジャン・ブレット／作・絵，さいごうようこ／訳，徳間書店【E ㉙】

北極に住む，妖精のエルフの女の子ティーカは，サンタさんに8頭のトナカイの世話をまかさ
れました。でもトナカイたちは言うことをきいてくれません。細部まで描きこまれた色鮮やかな
絵が美しいクリスマスの絵本です。

◆ 写真絵本

『どんぐりむし』藤丸篤夫／しゃしん，有沢重雄／ぶん，そうえん社【C 4】

どんぐりの小さな穴から出てきたのは，白くて芋虫のような「どんぐりむし」。本当の名前は「シ
ギゾウムシ」と言います。その名前の由来や成虫になるまでの様子が描かれています。

『まちにはいろんなかおがいて』佐々木マキ／文・写真，福音館書店【E ㉚】

押しボタン式信号機の押しボタンの部分をじっと眺めていると，目や鼻，口と，だんだん顔に
見えてきます。街を散歩しながら，マンホールや建物の壁などあちこちに現れる「顔」と会話を
しながらページが進みます。

◆ 言葉

『ん』長田弘／さく，山村浩二／え，講談社【E ㉛】

「ん」は，「？」や「！」など，つながる言葉によって，様々なニュアンスを伝えます。意外と
存在感のある「ん」を描いたユーモアたっぷりの絵本です。

『あーん』下田昌克／え，谷川俊太郎／ぶん，クレヨンハウス【E ㉜】

「あーん」と大きな口を開けて，「ぱく」と食べ，「ぶおー」と出して「ぶーん」と臭う…。食
べてうんちを出す赤ちゃんの毎日を，シンプルな絵と言葉で描いています。

『かぜフーホッホ』三宮麻由子／ぶん，斉藤俊行／え，福音館書店【E ㉑】

風でシーツがはためく音は、「ブオッフア ブオッフア」。竹と竹がぶつかる音は、「タンカンコン タンカンコン」。『おいしいおと』の三宮麻由子さんの作品です。

◆ 家族

『ぼくうまれたよ』花之内雅吉／作・絵，鈴木出版【E ㉒】

カンガルーのお母さんに，赤ちゃんが生まれました。赤ちゃんは，生まれてすぐにお母さんのおなかの袋に入り，その中で大きくなります。袋の中にも，外の声は聞こえています。

『十二支のおやこえほん』高島純／作，教育画劇【E ㉓】

「ハイ チーズ」と，写真撮影をするねずみの親子や，「トラ」ンペットやコン「トラ」バスで音楽会を開くトラの親子など，十二支の「親子」のやりとりが楽しめる絵本です。

『よふかしにんじゃ』バーバラ・ダ・コスタ／文，エド・ヤング／絵，長谷川義史／訳，光村教育図書【E ㉔】

「しめしめ このやのものは みな ねている で ござる」。真夜中，皆が寝静まった頃に，忍び込んだ忍者。さて，この忍者の正体とは…？ コルデコット賞受賞作家のエド・ヤングがコラージュの技法で絵を描いています。

『おかあさんの顔』ロディ・ドイル／文，フレヤ・ブラックウッド／絵，石津ちひろ／訳，フレール館【E ㉕】

10歳のシボーンは，3歳のときに亡くなったお母さんの顔をどうしても思い出せません。ある日，シボーンは家の近くの公園で，きれいな女の人と出会います。その女の方は，お母さんの顔を思い出す「いい方法があるわ」と言いました。

『つきごほん』計良ふき子／作，飯野和好／絵，佼成出版社【E ㉖】

昭和30年代の佐渡島が舞台。ある冬の朝，ちわこのお父さんは，家族を残して亡くなります。毎月同じ日に，お坊さんがお経をあげに来て，それが終わると，ちわこはお父さんにしたように，お坊さんに炊き立てのご飯をよそいます。

◆ 子供

『あの子、これはひみつやで!』くすのきしげのり／さく、かめざわゆうや／え、偕成社【E 7】

ある日の幼稚園の子供たちの内緒話。「ひみつやで!」と言ったのに、あっという間に幼稚園中に広まってしまいました。

『おうちにいれちゃだめ!』ケヴィン・ルイス／作、ディヴィッド・エルコリーニ／絵、長友恵子／訳、フレーベル館【E 11】

ママから、おうちにムシを入れちゃだめと言われたリヴィングストーンは、頭をひねって考えました。リヴィングストーンが連れてきたのは…。

『ぽんこちゃんポン!』乾栄里子／作、西村敏雄／絵、偕成社【E 1】

ぽんこちゃんが一番好きなものは、はんこ。ある日動物園へ出かけますが、お目当てのスタンプラリーは終わっていました。すると、ぽんこちゃんの肩を誰かが叩きました。

『おにいちゃんになるひ』ローラ・M. シューファー／作、ジェシカ・ミザーヴ／絵、垣内磯子／訳、フレーベル館【E 11】

スペンサーは、高い木に登ったり、大声を出したり、泥んこ遊びをしたりとってもやんちゃな男の子です。けれど、きょうのスペンサーはなんだか大人しい。なぜなら…。

◆ 伝記

『リーかあさまのはなし:ハンセン病の人たちと生きた草津のコンウォール・リー』中村茂／文、小林豊／絵、斎藤千代／構成、ポプラ社【E 11】

イギリス人宣教師コンウォール・リーは、今から100年近く前に、群馬県草津町にやってきました。そして、ハンセン病患者に寄り添い、「リーかあさま」と慕われるようになるのでした。

『北極点をめざした黒人探検家マシュー・ヘンソン』キャロル・ボストン・ウェザーフォード／著、エリック・ヴェラスケス／絵、渋谷弘子／訳、汐文社【E 11】

1909年に、人類で初めて北極点に到達した黒人探検家マシュー・ヘンソンの伝記。マシューは13歳で両親を亡くし、「冒険」をするために歩いてワシントンからボルチモアへ向かいました。

◆ 赤ちゃん向け絵本

『またまたはい！』みやにしたつや／著，アリス館【E 3】

孔雀やくじらなど，いろいろな動物がそれぞれのポーズで元気よく「はい！」と返事をする絵本です。

『ぐるぐるちゃんとふわふわちゃん』長江青／文・絵，福音館書店【E 7】

子リスのぐるぐるちゃんが目を覚ますと，森は真っ白。ぐるぐるちゃんは，初めて見る白くて冷たいものに大はしゃぎ。「これは ゆきよ」と教えてくれたうさぎのふわふわちゃんと友達になります。

『とべたよとべたよ』わかやましずこ／さく，童心社【E 7】

5羽の小鳥の赤ちゃんが生まれました。小鳥たちが，餌をもらって成長していく様子が描かれています。「王さまシリーズ」の挿絵で有名な，和歌山静子さんの絵本です。

◆ シリーズ絵本

『いちにちどうぶつ』ふくべあきひろ／さく，かわしまななえ／え，PHP研究所【E 7】

今回は，一日動物に変身。立ったまま寝るキリンや，実は木登りが得意なパンダなど，いろいろな動物に変身します。

『どろぼうがっこうぜんいんだつごく』かこさとし／作・絵，偕成社【E 7】

『どろぼうがっこう』の40年ぶりの続編。間違えて刑務所に盗みに入ったまま，捕まってしまったどろぼうがっこうの皆は，刑務所から脱獄しようと計画を立てます。

『ねぎぼうずのあさたろう その9』飯野和好／作，福音館書店【E 4】

たまねぎのあさたろうの前に，『ねぎぼうずのあさたろう その1』であさたろうに敗れたきゅうりのきゅうべえが，再び現れます。きゅうべえの目的とは？

『つくもがみ』京極夏彦／作，城芽ハヤト／絵，東雅夫／編，岩崎書店【E 7】

おじいちゃんは「ものをそまつにすると，ばけてでるよ」と教えてくれました。ところが，ある日，おじいちゃんが大切に使ってきたほうきやかさが，突然化けて出てきました。

児童図書

◆ 家族

『おばあちゃんは大どろぼう?!』デイヴィッド・ウォリアムズ／作，三辺律子／訳，きたむらさとし／絵，小学館【933 ㊦】

イギリスの少年ベンは11歳。おばあちゃんは、歩くたびにプップッとおならをして、使った後のティッシュを服の袖口につっこんでいる、ベンにとっては「近付きたくない」存在。でも、ある日、おばあちゃんが、クッキーの缶に宝石を隠し持っているのを発見したベンは…。

『アサギをよぶ声』森川成美／作，スカイエマ／絵，偕成社【913 ㊦】

「おまえが男だったらよかった。」少女アサギの母親が言うこの言葉で物語は始まります。アサギの村では、十二歳になると男は戦士になるために男屋に入り、女は嫁入りの準備のために女屋に入るのです。

『お母さん取扱説明書』キムソンジン／作，キムジュンソク／絵，吉原育子／訳，金の星社【929 ㊦】

韓国のお話。組み立てると命を宿すという「バイオ・トイ」（おもちゃ）が町にあふれている時代。小学生のヒョンスは、お父さんにねだってバイオ・トイの「お母さん」を買ってもらいます。でも、お母さんは、家事をする以外は、部屋に閉じこもっているだけで、ヒョンスはがっかりします。

◆ 子供

『がむしやら落語』赤羽じゅんこ／作，きむらよしお／画，福音館書店【913 ㊦】

小学5年生の雄馬のあだ名は「省エネ人間」。いじわる3人組の企みで、小学校の特技発表会で、やったこともない落語を演じる羽目になってしまいます。

『チャーリー・ジョー・ジャクソンの本がキライなきみのための本』トミー・グリーンウォルド／作，元井夏彦／訳，J.P.クヴァート／絵，フレーベル館【933 ㊦】

チャーリーは、いつも友達のティミーにアイスクリームをおごって、代わりに本を読んでもらい、あらすじを教えてもらって宿題を仕上げていましたが…。

本から逃げる25の裏ワザも載っています。

『ハンナの学校』 グロリア・ウィーラン／作，中家多恵子／訳，スギヤマカナヨ／絵，文研出版【933 ㊦】

ハンナは目の不自由な女の子。身なりも構わず，学校へも行かないで，お母さんの話し相手をしていました。そんなハンナを見た小学校のロビン先生は，学校へ来させるようお父さんとお母さんを説得しました。

『モッキンバード』 キャスリン・アースキン／著，ニキリンコ／訳，明石書店【933 ㊧】

小学校5年生のケイトリンは，アスペルガー症候群の女の子。いつも優しい兄のデボンが，かいがいしく世話をしていましたが，デボンは，学校で起きた銃乱射事件で亡くなってしまいます。他人とコミュニケーションを取るのが苦手なケイトリンは，カウンセリングの先生に言われて，友達作りを始めましたが…。

◆ 不思議

『やさしい大おとこ』 ルイス・スロボドキン／作・絵，こみやゆう／訳，徳間書店【933 ㊨】

むかし，山のふもとには，度々大おとこがあらわれました。村人たちは，大男の大きな声を恐れて，みんな耳をふさいでいたので，大男が何を言っているかはわかりませんでした。

『いたずら妖怪サッシ：密林の大冒険』 モンテイロ・ロバート／作，小坂允雄／訳，松田シヅコ／絵，子どもの未来社【969 ㊩】

ブラジルのお話。赤い帽子をかぶった一本足の魔物サッシは，いたずら好きで，密林のことならなんでも知っています。サッシを捕まえた少年ペドリンニョは，一緒に冒険に出かけることにしました。

『ホートン・ミア館の怖い話』 クリス・プリーストリー／著，西田佳子／訳，理論社【933 ㊪】

両親を亡くした少年マイケルは，後見人のスティーヴン卿の住むホートン・ミア館でクリスマス休暇を過ごすこととなります。人里離れた沼地にある古い館は，異様な気配に満ちていました。

◆ 社会

『田んぼの不思議』安室知／著，小峰書店【616 ヲ】

田んぼでは、米を作るだけでなく、ドジョウ・フナ・タニシなどが取れ、畔で大豆や小豆を栽培することもありました。米作りの一年，魚とりカレンダー，田んぼをめぐる水の流れ等，田んぼの魅力を紹介しています。

『毎日新聞社記事づくりの現場』深光富士男／文，佼成出版社【070 ㊦】

社会部，写真部，社説，校閲グループ等，新聞づくりのそれぞれの仕事ぶりを追っています。「このプロジェクトを追え」シリーズの1冊。

『武器より一冊の本をください：少女マララ・ユスフザイの祈り』ヴィヴィアナ・マツァ／著，横山千里／訳，金の星社【289 ュ】

国際連合本部でスピーチしたことで有名なマララ・ユスフザイさんの伝記。マララさんが，BBCのために書いた日記やニューヨークタイムズのドキュメンタリー，本人へのインタビュー等を基に構成されている。

『ジャッキー・ロビンソン：人種差別をのりこえたメジャーリーガー』近藤隆夫／著，汐文社【783 ュ】

アメリカのメジャーリーグで黒人への差別を乗り越えて活躍したジャッキー・ロビンソンの伝記。その実現のために尽力したブルックリン・ドジャースの会長ブランチ・リッキーの努力も追っています。

◆ 戦争

『だれにも言えない約束』ジーン・ブッカー／作，岡本さゆり／訳，中山成子／絵，文研出版【933 ㊦】

第二次世界大戦中のイギリス。小学生のエレンは，偶然，逃亡中のドイツ兵を見つけました。爆撃によって，石造りの小屋に閉じ込められたエレンとドイツ兵の二人は…。

『ゾウと旅した戦争の冬』マイケル・モーパーゴ／作，杉田七重／訳，徳間書店【933 ㊦】

動物園の子ゾウを，夜の間だけ自宅で世話をしていたリジー一家。第二次世界大戦末期，ドレスデンの町が爆撃され，一面火の海になる中，リジー達は子ゾウを連れて必死で逃げるのでした。

『ぼくは満員電車で原爆を浴びた：11歳の少年が生きぬいたヒロシマ』米澤鐵志／語り，由井りょう子／文，小学館【916 ㉔】

昭和20年8月6日，米澤鐵志さんは，爆心から750メートルの電車内で，母親と一緒に被爆しました。窓際の方は，ガラス片が突き刺さり血まみれになりましたが，米澤さんは，電車の中ほどにいたため，ほぼ無傷で電車の外に出ました。しかし，外は爆風のため真っ暗でした。

青少年向け図書

◆ 気持ち

『わたしは倒れて血を流す』イエニー・ヤーゲルフェルト／作，ヘレンハルメ美穂／訳，岩波書店【949.8 113ㄱ】

主人公のマヤは，毒舌家ですが，実は繊細な高校の美術科コースの1年生です。あるときマヤは，電動ノコギリで左手を怪我してしまいます。マヤは，離れて暮らしている母親に知らせようとしましたが，なかなか連絡が取れません…。

『教室内(スクール)カースト』鈴木翔／著，光文社【S371.3 112ㄹ】

学校のクラス内で発生するスクールカーストについて，学生や先生へのインタビュー，大規模なアンケート調査等を通して，その実態を紹介しています。

『ランドセル俳人の五・七・五』小林凜／著，ブックマン社【911 ㄱ】

944グラムで生まれた著者は，小学校に入ると壮絶ないじめを受け，不登校になりました。少年は，俳句を詠むことによって，生きる希望を見出します。

『きっときみに届くと信じて』吉富多美／作，須田彩加／装画・挿画，金の星社【913 ㉔】

コミック化や映画化された『ハッピーバースデー』を共作した吉富多美さんの作品です。中学1年生の海は，バレーボール部で活躍していました。同じ部の晴香と仲が良かったのですが，ある日突然，書店での万引き犯に仕立て上げられてしまいます。

◆ 生き方

『わたしはマララ』マララ・ユスフザイ／著，クリスティーナ・ラム／著，金原瑞人／訳，西田佳子／訳，学研パブリッシング【289 ヌ】

マララさん自身による自伝。パキスタンで、小学生として普通に生活していたマララさんの暮らしは、タリバンによって大きく変わっていきます。

『Because I am a Girl』ティム・ブッチャー／[ほか]著，角田光代／訳，英治出版【933 ㊦】

「女の子だから」という理由だけで不当な扱いを受けている，世界各地の女の子を主人公にした小説やルポルタージュなどのアンソロジー。

世界の7人の作家が現地取材して書き下ろした作品を，角田光代さんが翻訳しています。

『生きのびるための犯罪 (みち)』上岡陽江／著，ダルク女性ハウス／著，100%ORANGE／装画・挿画，イースト・プレス【493 ㊦】

著者は，東京の「ダルク女性ハウス」で，薬物やアルコールなどの依存症の回復と社会的な自立を支援するための活動を20年以上続けている方です。

上岡さん自身もアルコール依存症で苦しんだ経験があり，「今苦しんでいる人たちや身近にいる人に，この本を知ってほしい。」と呼びかけています。

『あと1%だけ，やってみよう』水戸岡鋭治／著，集英社インターナショナル【757 113 ㊦】

JR九州のクルーズトレイン「ななつ星」のデザイナーである著者が，「ななつ星」の開発に至るまでの道のり，影響を受けた人物やデザイナーの仕事について語ります。